

2026年4月27日

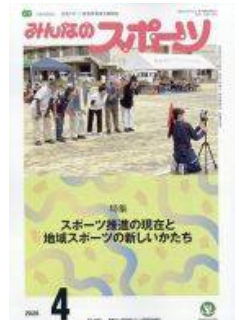
『みんなのスポーツ』4月号(No.522)から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の4月号は「**スポーツ推進の現在と地域スポーツの新しいかたち**」の特集号です。

私の視点で気づいたこと・感じた事、参考になる点を3点記載します。



- (1) **理論1 第3期スポーツ基本計画の中間評価と地域スポーツの広がり** 横須賀市も急激な高齢化で、図1にある高齢化率曲線もより10年近く早く進んでおり課題である。これに対応して事務局と協議を始めている。ましてや私が住む地域(学区)はもっと速いペースで進み町内会・連合町内会や横須賀市西地区全体でも大きな問題・課題である。地域では全世代向けには、健民運動会、歩こう会、グラウンド・ゴルフ大会、ニュースポーツ体験会を行い、他に小学生や中学生向けには「ドッジボール大会や流しソーメン会」、幸(高)齢者には毎月「お達者教室(2分間スピーチ、歌・運動やゲーム・ミニミニ健康講座)」他を行っている。働く世代や若い子育て世代への対応はあまりできていない。昨年度横須賀市の社会教育委員会議の場で知った、「多様な国民一人一人が生きがいを持ち幸福を享受できるような、豊かさを実感できる社会の実現」という、スポーツを通じたウェルビーイングという考え方が必要だと私は感じています。
- (2) **事例1 海から陸へ 山梨県北杜市 県内唯一のビーチバレーボールコートを活かしたスポーツ振興**。読んでいくと地元白州町から採れる花崗岩の真っ白できめ細かい砂を使用しているとの事。またこの砂は炎天下の真夏でも熱くなりにくく、横須賀の砂浜とは違ったもの。地産地消の取り組みであり、東京オリンピックではフランスビーチバレーボール選手団が事前調整にも使われた。その後も、市長杯・署長杯・協議会会長杯とビーチバレーボールだけで3つの大会があるどうして海なし県の山梨でと思いつつ、紙面を一気に読みきりました。最後に北杜市スポーツ推進委員は59名全員が「みんなのスポーツ」を購読、凄い！！
北杜市の児童は修学旅行で、東京と横須賀・鎌倉にもう11年くらい前から来ていただいている、東京湾唯一の無人島“猿島”を今年もガイドとして案内させていただきます。児童の感性は他の児童と違っている、今年も待っています。
- (3) **事例2 防災と地域スポーツのこれから 高知県高知市潮江地区「区民・防災運動会」の取り組みが紹介**されている。この地区の人口は約8000名で近年人口の変動はないが、小学校の児童は最盛期約1000名でしたが、現在は約200名。この地区は南海トラフト地震による津波浸水想定区域に指定されているとの事。
私の地域でも今年度から運動会は、半日型・体力勝負でなく誰でも参加の内容に変更していく。今回紹介されている防災への関心を高める内容は参考になるみんなで検討の参考にしていく

と思います。

今月号で3つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことでできることから始めて(行動)みませんか？

*本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがあるように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。問題意識や感度を高めていくと紹介されている事例が使える場合と横須賀ではこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど思います。特にここ1、2年で冊子内容が読者参加型の編集になりました。
活動はみんなでは是非一緒に取り組んでいきましょう！

以上